

# 日本語教育人材養成・研修カリキュラム等開発及び日本語教育人材の研修プログラム普及促進事業実施要項

平成30年2月8日  
文化庁長官決定  
令和2年3月31日  
一部改正

## (目的)

第1 本事業は、文化審議会国語分科会が取りまとめた「日本語教育人材の養成・研修の在り方について（報告）」改定版で示す「日本語教育人材の養成・研修の在り方及び教育内容」（以下、「教育内容等」という。）に基づく養成・研修カリキュラム開発を実施及び開発された研修プログラムを活用・普及することにより、教育内容等の円滑な普及を促すとともに、日本語教育人材の資質・能力の向上を図ることを目的とする。

## (事業区分と業務内容)

- 第2 本事業は、次の各号に掲げる事業区分に応じ、それぞれ当該各号に定める業務を行うものとする。
- 一 日本語教師の養成カリキュラム開発  
教育内容等に基づく日本語教師の養成に係るカリキュラム及びプログラムの開発・実施並びにその成果の検証等業務。
  - 二 日本語教育人材の研修カリキュラム開発  
教育内容等に基づく日本語教育人材に対する研修に係るカリキュラム及びプログラムの開発・実施並びにその成果の検証等業務。
  - 三 日本語教育人材の研修プログラムの活用・普及  
教育内容等に基づく日本語教育人材の研修に係る優良なプログラムの活用・普及並びにその成果の検証等業務。
  - 四 日本語教育人材に対する講師の育成  
教育内容等に基づく研修を実施する講師の育成。
  - 五 日本語教師の資格に関する調査研究  
日本語教師の資質・能力を証明するための資格創設に向けて必要となる調査研究の実施。
  - 六 その他付随する業務  
当該事業の実施に付随する業務。

## (事業の決定及び実施方法)

- 第3 本事業は、それぞれ次の各号に定める方法により決定及び実施するものとする。
- 一 前第2一、二、三、四に定める事業
    - (1) 文化庁は、当該事業を実施する団体を公募するものとする。
    - (2) 当該事業の実施を希望する団体は、別に定める企画書等応募書類（以下「応募書類

等」という。)を文化庁に提出するものとする。

(3) 文化庁長官は、提出された応募書類のうちから、本事業としてふさわしいものを選考、決定し、事業を委託する。

(4) 文化庁長官は、企画の選考、決定に当たっては、別に定める学識経験者等から構成される日本語教育人材養成・研修カリキュラム等開発事業企画・評価会議及び日本語教育人材の研修プログラム普及促進事業企画・評価会議に諮って行うものとする。

## 二 前第2五に定める事業

文化庁は本業務の実施に当たり、業務を委託できるものとする。

## 三 前第2六に定める事業

本業務は、文化庁が実施するものとする。ただし、文化庁は本業務の実施に当たり、業務の一部を委託できるものとする。

## (実施の期間)

第4 本事業の実施期間は、当該年度の範囲で別に定める。

## (経費の負担)

第5 文化庁は、本事業の実施に当たり、予算の範囲内で必要な経費の全部又は一部を負担するものとする。

## (事業の変更等)

第6 事業決定後に、事業の内容に変更が生じた場合には、実施団体は、変更内容及び変更理由等を速やかに文化庁に届け出なければならない。ただし、軽微な変更を除く。

二 事業決定後に、やむを得ず本事業を取りやめる必要が生じた場合には、実施団体は、理由等を速やかに文化庁に届け出なければならない。

## (事業の報告)

第7 事業の実施団体は、事業完了後に実施報告書を文化庁に提出するものとする。

## (その他)

第8 この要項に定めるもののほか、本事業の実施に関し必要な事項は、文化庁次長が別に定める。